

日本の森とクマ

日本の国土のおよそ4割にクマ（ヒグマ・ツキノワグマ）が生息しています。生息地のほとんどは森林ですが、特にどんぐり類が不作の年は食物を求めてクマの行動範囲は広がり、本来の生息地を離れ、人里近くに近づくことがあります。このときに人との出会い、農作物被害や林業被害などの問題を引き起こすことがあります。

どんぐり類が不作



クマは行動範囲を広げる



人里近くにも出てくる



クマによる被害が増える



かつて里山などの山林は人手をかけて管理されてきました。このことがクマなどの野生動物が人里に近づきにくくしていたと考えられています。しかし、現在では山村地域の過疎化や高齢化など、社会環境の変化により、里山や山林を手入する活動が減っています。

山奥から人里まで切れ目なく続く森林、山奥は自然に任せたゆたかな環境に、人里近くの山林は積極的に利用するなど、人と動物のすみわけにつながるような取り組みが求められています。

クマの生態

クマは小さな音でも聞き分ける能力（聴覚）、イヌのようにわずかなニオイをかぎ分ける能力（嗅覚）をそなえた大型動物で、優れた運動能力をもっています。



- ◎木登り、穴ほりのために強い力と鋭いツメを持っています。
- ◎人より速く、時速 40km 以上で走ることができます。
- ◎水泳も得意で、木に登ることもできます。

12月～4月まで冬眠します
(地域や年により変わることもあります)



冬眠から覚めると山菜などを食べます



冬
春
秋
夏



6月頃に繁殖期

秋になると木の実を食べます



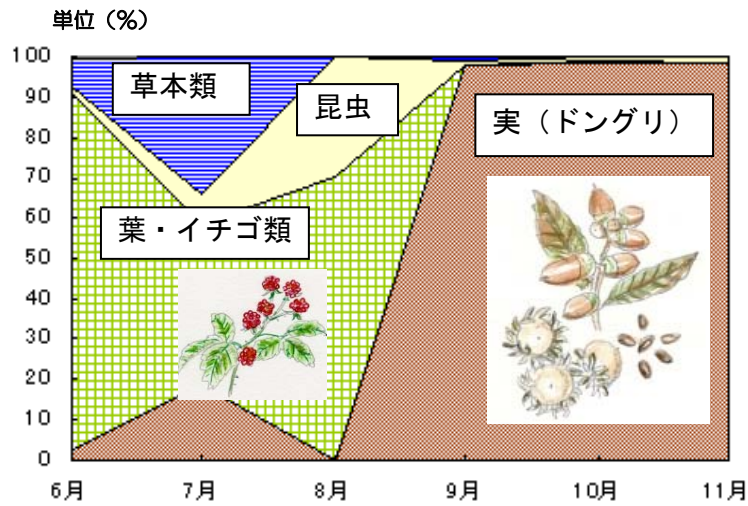
夏はハチミツや昆虫を探して食べます



ツキノワグマと人との関わり

クマの食べ物と生息地

ツキノワグマの食物の9割以上は植物です。春には、芽吹いたブナの葉やさまざまな植物を食べます。夏はアリやハチなどの昆虫を多く食べます。秋になると、ドングリなど木の実をたくさん食べるようになります。



食べ物の季節変化



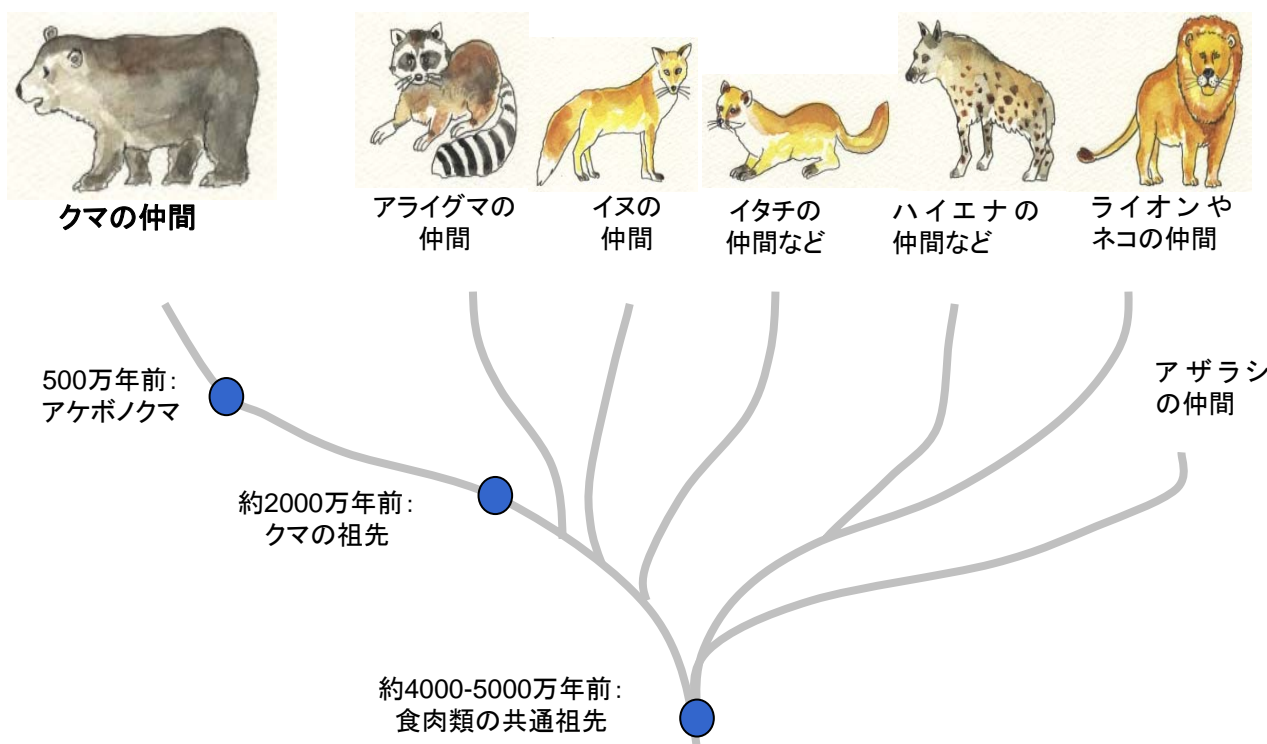
●落葉広葉樹林とどんぐり●

ツキノワグマがおもに生活するのは、落葉広葉樹林の森林です。そこに生育するブナ・コナラ・ミズナラなどの実（どんぐり）を餌としています。このような森林はツキノワグマにとって非常に重要な場所です。

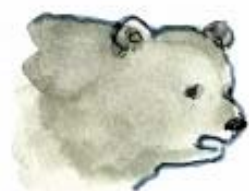
クマの進化

クマはイヌやネコと同じネコ目（食肉類）の仲間ですが、2000 万年ほど前から独自の進化をとげました。植物を食べるのに適した奥歯（臼歯）に変化しているのが大きな違いです。ジャイアントパンダもクマの仲間です。ネコ目には、ライオン、ハイエナ、アライグマ、アザラシなども含まれます。

クマの仲間は、ホッキョクグマを除いて主に森林地帯に生息しています。熱帯地方に生息する3種類のクマ（マレーグマ、ナマケグマ、メガネグマ）とジャイアントパンダ以外のクマは冬眠します（ただし、ホッキョクグマはメスだけが冬眠）。



ネコ目（食肉目）の進化



クマの歯



← 前



ライオンの歯



クマの Q and A

Q クマは肉食動物ではないのですか？

A 肉食もしますが、植物質に偏った雑食性です。食肉類なので、大きな犬歯がありますが、臼歯（奥歯）は植物をすりつぶすのに適した形に変化しています。

Q クマの好物はドングリだけですか？

A ドングリは主に秋に実り、越冬前の栄養価が高いエサとして知られています。他の時期は沢沿いの草本や新芽、新葉 さまざまな種類の果実類など時期に合わせてさまざまなエサを食べています。またハチミツも大好物です。

Q クマはなぜ冬眠するのですか？

A ヒグマとツキノワグマは秋に大量に食べて脂肪をため、エサの少ない冬は冬眠して過ごすように進化しました。一年中、果実や昆虫類が豊富な熱帯地方に生息するクマの仲間は冬眠しません。



Q クマは被害を出す動物なのになぜ保護するのですか？

A クマの生息地に近いところに住む人たちにとって、クマは恐ろしい存在です。でも、食べた植物の種をフンとして出すことで植物の繁殖を助けるなど、クマは生態系を支える役目を果たしています。クマがいる森は、他の多くの動物も生息できる大事な地域です。人里とクマ生息地の間にクマが立ち入りにくい場所を設けるなど、生活圏が重ならないようにすみわけを目指した研究や対策が始まっています。

Q クマをなぜ殺すのですか？

A 奥山の人々は昔からクマを山からもたらされる食料として捕獲してきました。また、そこに住む人たちの命と財産を守るため、畑を荒らすクマなども捕獲されています。絶滅しないよう、生まれる子供の数以上は獲らないなどの制限を設ける必要があります。



Q クマにエサをやっていいのですか？

A エサを与えると、それに慣れて人里はエサをくれる場所、人をエサの供給源と考えてしまいます。それは、農作物を荒らしたり、人をおそう危険なクマを作り出すことにつながることから、絶対にエサをやってはいけません。



キャンプ地でクマにエサを与える。このような行動は、自分だけでなく他の人にも危険をもたらすので、絶対にしてはいけません。

保護者の皆様へ

平成 18 年度は、ドングリ類の凶作等から人里近くに出没するクマが増えたため、全国で 150 名の負傷事故（うち 5 名が死亡）が起きました。事故の多くは、山菜やキノコ採りのためにクマの生息地に入った時に起きていますが、児童生徒の通学路など人里でも発生しています。

最近、通学路で発生した事故では、平成 13 年 6 月に岩手県内で、平成 18 年に長野県内で、中学生が通学途中でクマに襲われました。

この小冊子は、児童生徒が通学路や放課後にクマとの突然の出会いによる事故をなくすために、クマの生態や注意事項をまとめたものです。

保護者の皆様もお子さんと一緒にこの小冊子をご覧くださいとともに、地域で協力してクマを人里に近づけないなどの取組を行って頂くようお願いします。

*クマによる事故を防ぐためにより詳しく知りたい方は、環境省ホームページに掲載している「クマ類出没対応マニュアル」を参考にしてください。

（「クマ類出没対応マニュアル」で検索して下さい）



発行：環境省自然環境局野生生物課

〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-2

編集：(財)自然環境研究センター

絵：井草志乃